

自己評価結果公表シート（令和3年度）

東豊中幼稚園

1. 本園の教育目標

- ・一人ひとりを大切に、遊びと生活を通して子どもたちの「積極的に生きる力」「自律性」を育てる。
- ・遊びや生活の中で、自分で考えて決める力を育てる。
- ・思いやりをもって人と関わる力を育てる。
- ・自分を大切に思う心を育てる。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ・職員間の報告・連絡・相談を大切に、チーム全体で共有することにより共通理解できるよう努める。
- ・園内研修や日々の教材研究、保育の振り返り等において職員が主体的に学び合う風土を築き、全体の資質向上に繋げる。
- ・職員一人ひとりが教育理念に基づいた保育目標をもち、保育実践に繋がられるよう努める。
- ・園での子どもの様子や生活について保護者と情報共有し、家庭との連携を大切にする。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
保育の資質向上	<ul style="list-style-type: none">・子どもの姿や育ちについて教職員間で定期的に振り返りの時間をもったり、話し合いを重ねたりし、保育の資質向上に努めている。・園内研修で園の教育理念や教育課程について学びを深め、実際の保育や子どもの姿と結び付け、よりよい保育ができるよう努めている。・年間を通して自主的な園内研修を実施し、教職員間で語り合う場を持つことで互いに学び合えるチーム作りをすすめている。・学年メンターが各クラスを巡回し、担任のサポートをすることでよりよい保育ができるよう努めている。
安心して過ごせる環境づくり	<ul style="list-style-type: none">・遊具や園内外の点検を毎日行い、安全を確認している。また、子どもが手に触れる玩具等、施設環境の消毒を毎日行っている。・子どもたちが落ち着いて過ごすことができるよう、保育室内・その他施設の環境を子どもたちの様子に応じて整え、一人ひとりに必要な援助ができるよう努めている。・保育補助として、学年メンター3名、フリー教諭16名、補助職員10名の体制をとっており、子ども一人ひとりの成長に合わせた援助や見守りの充実を図っている。・保育に関わる様々な危機管理について教職員で確認し合い、マニュアルの見直しを行っている。

遊びの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが遊ぶ姿をよく観察し、一人ひとりが遊びこめる環境作りに重点をおいた。また、子どもの興味や関心、姿に合わせて環境を見直し、遊びが発展、充実していくよう、環境の再構成を都度行うよう努めた。 ・園内研修や日々の教材研究において教職員自らが遊びの面白さを体験し、子どもが遊びの中で考えたり、工夫したりすることができるよう学びにつながる声掛けや援助を行った。 ・ルールのある遊びを楽しみながら、社会性や協調性を身につけ、また自ら考える力を養い、遊びを繰り返し楽しめるよう環境を整えている。
子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> ・主に保護者対象として育児ストレスの軽減や子どもたちの健やかな育ちを援助するために心理専門家によるカウンセリングを実施している。 ・子育て相談員や幼児教育アドバイザーなどの資格を持つ職員を配置して気軽に話ができる環境を整えている。 ・地域の親子が参加できる「りんごらんど」「はぐはぐりずむ」を開催した。令和3年度は新型コロナウイルス感染症対策により予約制にしたり人数制限をしたりしながら保護者が繋がる支援に取り組んだ。 ・働く保護者の支援を目的に早朝保育の「おはようクラス」・放課後預かり保育の「りんごぐみ」を実施している。
保護者理解	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症に関わる必要な情報の開示と社会の動向に合わせた園の対応等を時々で発信し、保護者理解が得られるよう努めている。 ・保護者参加の行事を実施するために話し合いを重ね、取り組み方を工夫したり、活動内容を見直したりし、実施できるようすすめている。 ・コロナ禍における保護者の保育参加機会の減少を受け、園の様子を情報発信するシステムを充実させた。 ・保護者が子どもの日々の姿や園での様子を知ることができるよう、HPをさらに活用したり、動画配信を行うなどしたり、保育の様子を定期的に発信するようになった。 ・新型コロナウイルス感染症に関わる様々な理由での長期欠席の子どもには子どものケアと保護者支援として郵送物を送るなどし、連絡を取るよう努めている。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

コロナウイルス感染症の流行を受け、園での感染症対策や保育内容について、教職員で日々話し合いを重ね、職員が一丸となって子どもの経験と活動を第一に考え計画をたてながら、時々々の社会の状況に合わせて保育実践することができた。

保護者に園での感染症対策や取り組み等を丁寧にお手紙やメールで発信し、情報の共有を小まめに行った。それにより、一定の保護者理解が得られたと考えている。

教職員全員で取り組む課題について共有し、目的やねらいから内容を考えたことで全ての職員が目標に向かって取り組み、よりよい保育に繋げることができた。

園内研修や日々の保育の振り返り等で語り合うことを大切に過ごした。それにより教職員間のチーム

ワークが深まった。また、一人ひとりの保育目標が明確になり、向上心をもって保育を行うことができた。

5. 今後取り組むべき課題

◇保育者の質の向上

園内や外部の研修にそれぞれが向上心をもって積極的に参加する中で、学びを自分だけに留めるのではなく、園や他の保育者に伝えていきながら、実際の保育で実践し、全体的な質の向上に努めていくことができるようにする。

一人ひとりの子どもたちの姿や成長を大切にしながら、幼児理解を深め、よりよい保育を目指す。

◇職員の育成

新任教職員が園の一員として園理解を深め、自己発揮できるよう園内研修とは別にミーティングの時間を持ち、対話する機会を多く作る。また、新任教職員の考えやアイデアを肯定的に受け止め、向上心を育てる。

◇園内研修の充実

1年間の日程を定めることで計画的に園内研修をすすめることができるようにする。また、情報共有をするための時間を定期的に設けることができるように計画する。

◇教職員間の情報共有の徹底

職員会議を行い、担任だけではなく教職員全員が一人ひとりの子どもの様子をより把握し、個々の特性に合った援助をしていきたいと考えている。また、日々の保育の出来事を伝えあったり、相談しあったり等、教職員間のコミュニケーションの場を大切にしていく。

◇幼保小の連携を深める

連携していくことの重要性を感じ、引き続き他校園所との交流を充実させていくとともに、学びの連続性を踏まえて保育内容を検討し、小学校就学へスムーズに移行できるようにする。

他校園所の職員関係もより深められるよう努める。

◇子育て支援

今後さらに地域の方々が来園できる機会が増えるよう考えている。また、未就園児の子どもたちや地域の方々との交流が生まれるよう、年齢別や回数などイベント内容の充実を図る。

6. 学校関係者の評価

手紙やホームページで遊びや活動の様子を伝えること、保育風景の写真や動画を使った情報発信を行うこと、子どもたちの様子を日々丁寧に連絡することで保護者に園でどのような事を大切に保育しているのかより理解してもらえるようになったと考えている。コロナ禍で心配や不安がある日常の中、保護者が安心して子どもを通わせることができるよう、日々の社会の状況に合わせて適宜感染症対策を見直し、情報を共有、発信したことから保護者理解を得られたと考える。保護者とのコミュニケーションを大切に関係を築き、理解を得られたことで保育者自身も志を高くもち、保育に臨むことが出来た。

7. 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。